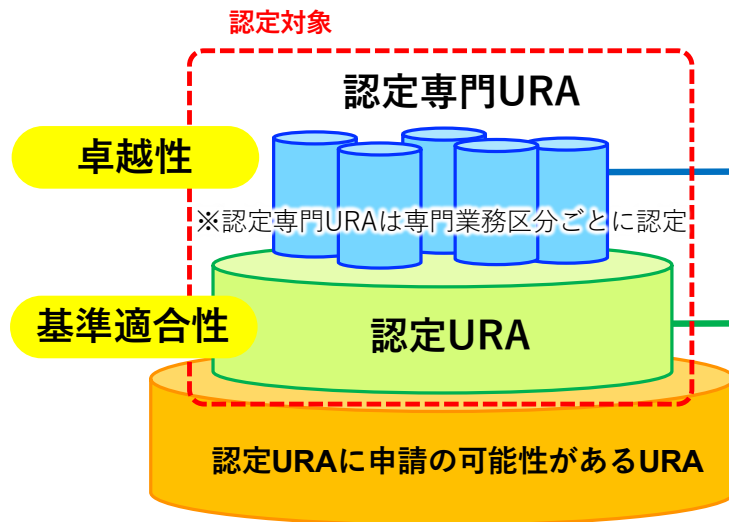


URA人材と認定のレベル

URAスキル認定制度におけるURA人材

大学等組織全体を俯瞰しながら、学術的専門性を理解しつつ、自身の業務に関する専門性とセクターに偏らない能力を駆使して、多様な研究活動とそれを中心に派生する様々な業務に積極的かつ創造性をもって関わり、研究者あるいは研究グループの研究活動を活性化させ、組織全体の機能強化を支える人材。

認定制度のレベルの関係



卓越性：他者と比して卓越した実務能力を有することを保証するものであること

基準適合性：URAが担う各業務・レベルに対応した必要な基準を充足する実務能力を有することを保証するものであること

認定制度におけるURAの人材像

URA（あるいは類似職）として十分な実績を有しており、一つ以上の中核的業務（当該URAが主に従事している業務）に関する卓越した能力を備え、組織内外の関係者と協力して研究者、研究グループの研究活動の活性化に重要な位置付けで寄与するとともに、組織の機能強化に貢献できる人材。

URA（あるいは類似職）として関わる業務全般の知識を一定レベル以上備え、かつ大学等、我が国の研究組織での一つ以上の中核的業務（当該URAが主に従事している業務）の経験を有し、研究者、研究グループの研究活動の活性化に主体的に関わる能力を備えた人材。



人材像に合致した認定基準を設定

URAのスキル

認定基準 → URAの人材像とスキル標準におけるスキルに基づき設定

スキル

認定URAになるための研修
Fundamentalレベル + Coreレベル

認定専門URAになるための研修
Fundamentalレベル + Coreレベル + Advancedレベル

||

業務遂行能力（知識・理解力と問題解決能力）

+



研修で最低限を担保，審査で確認

認定URA
自立性

認定専門URA
主導性

認定URA

認定専門URA

業績（経験あるいは実績）



審査で評価

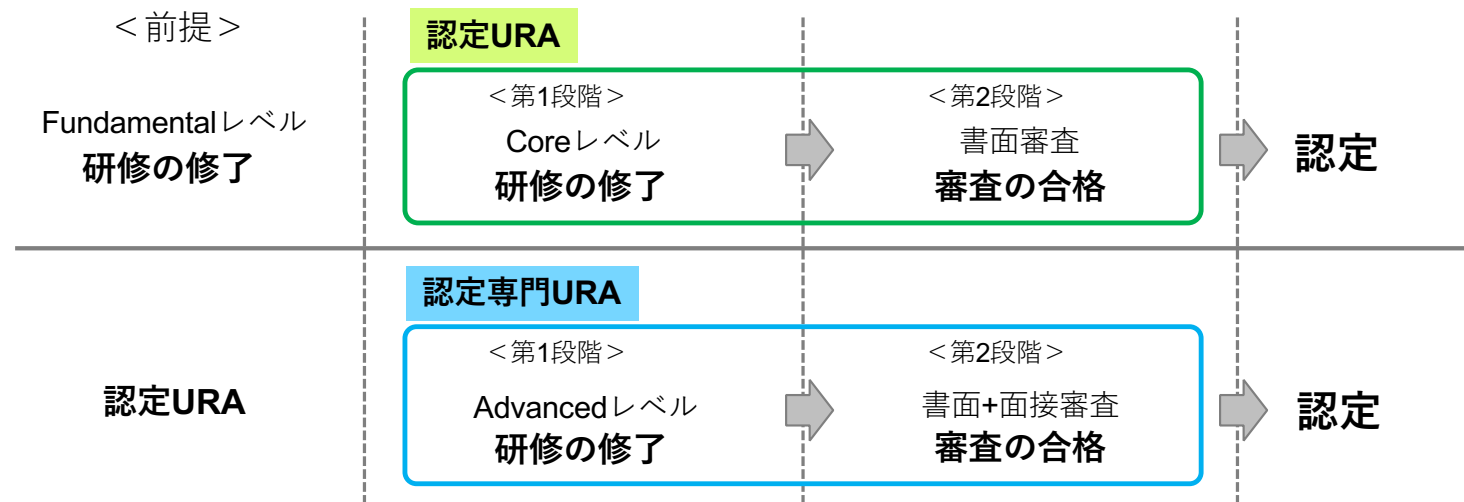
スキル標準では業績（経験と実績）とされているが、
本認定制度では認定のレベルに対応させるため業績（経験あるいは実績）としている。

認定スキーム

認定レベル	認定URA	認定専門URA
人材像	URA（あるいは類似職）として関わる業務全般の知識を一定レベル以上備え、かつ大学等、我が国の研究組織の一つ以上の中核的業務（当該URAが主に従事している業務）の経験を有し、研究者、研究グループの研究活動の活性化に主体的に関わる能力を備えた人材。	URA（あるいは類似職）として十分な実績を有しており、一つ以上の中核的業務（当該URAが主に従事している業務）に関する卓越した能力を備え、組織内外の関係者と協力して研究者、研究グループの研究活動の活性化に重要な位置付けで寄与するとともに、組織の機能強化に貢献できる人材。
認定期間	5年	5年
申請要件	•3年以上（または同等）のURA業務経験 •Coreレベルの研修プログラムの修了	•申請時に認定URAであること •Advancedレベルの研修プログラムの修了
審査	書面審査 基準適合性を審査	書面＋面接審査 卓越性を審査

研修の位置づけ

本認定制度における研修は、業務遂行能力の要素である知識・理解力を**最低限担保**するもとして位置づけられています。そのため、審査を受ける前に指定されたレベルの研修を修了している必要があります。



認定URAの申請要件にCoreレベルの研修修了があります。
Coreレベルの受講にはFundamentalレベルの研修を修了していることが求められます。

認定専門URAの申請要件にAdvancedレベルの研修修了があります。
認定専門URAの申請には前提として認定URAであることも求められます。

研修レベルの考え方

Fundamentalレベル

URA業務上の課題の発見と解決を上司の指示のもとに行うことができる知識のレベル

Coreレベル

URA業務上の課題の発見と解決を**自立的**に行うことができる知識のレベル

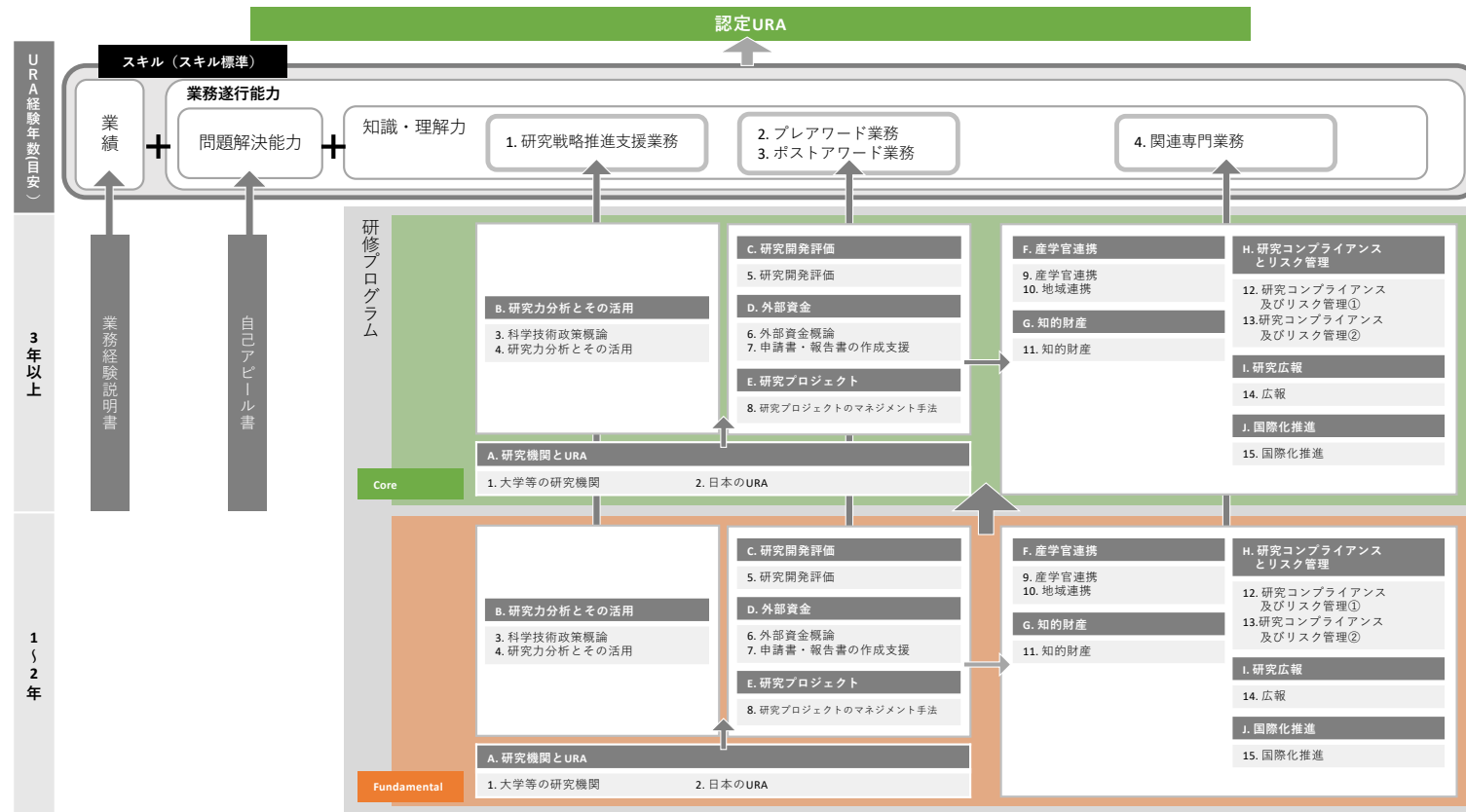
Advancedレベル

現在検討中

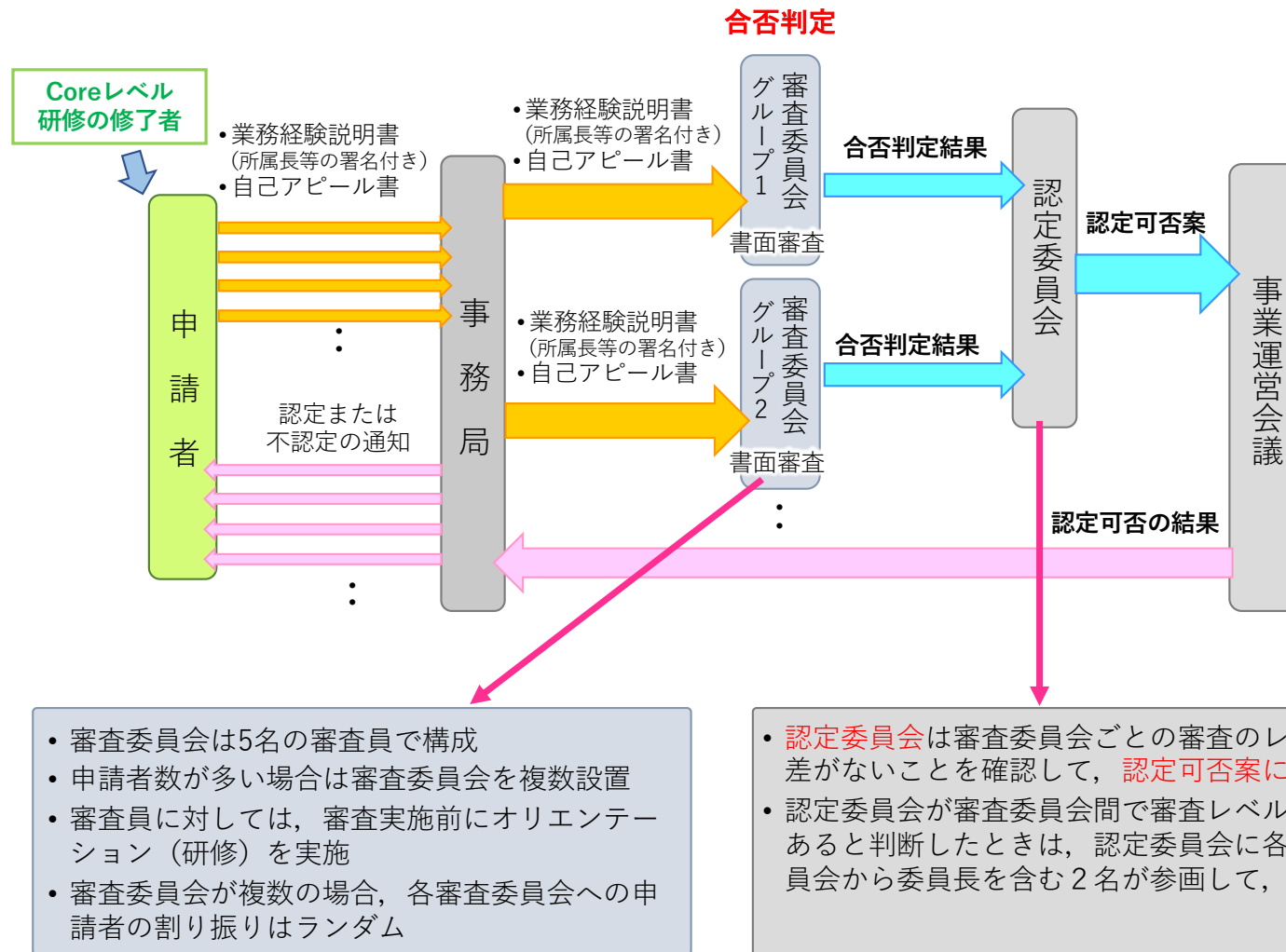
URA業務上の課題の発見と解決を**主導的**に行うことができる知識のレベル

FundamentalレベルとCoreレベルの研修は、連続的な内容となっているため、Coreレベルの受講にはFundamentalレベルを修了していることが求められます。

FundamentalレベルとCoreレベルのカリキュラムマップ



認定URAの審査プロセス



様式1：業務経験説明書

申請者のURA業務（類似業務を含む）の経験が直近の過去3年以上あることの確認と、その内容と量が基準（制度概要参照）を満たしているかの判断に用いられます。

業務の内容と申請者の役割等を具体的に書いてください。

様式2：自己アピール書

申請者がURAとして自立的に問題解決をする能力を備えているかの判断に用いられます。

次の2つについて項目を立てて説明してください。

- 特にアピールしたいURA業務（類似業務を含む）の経験
- その経験において、申請者の自立的な問題解決能力を証明する自身の役割・貢献

自身の業務上の役割や創意工夫等を含めて書いてください。

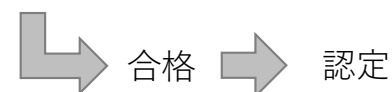
認定URAの評価項目と評価の観点

評価項目	評価の観点及び根拠書類
1. URA業務の経験	大学等において、URA業務等の経験が直近の過去3年以上あると認められるか。 ※業務経験説明書に基づき、 <u>可否で評価</u>
2. URA業務の内容	URAとしての業務を主体的に行っているか ※主に業務経験説明書に基づき、 <u>5段階で評価</u>
3. URA業務の量	URAとしての業務の量は妥当か ※主に業務経験説明書に基づき、 <u>5段階で評価</u>
4. 問題解決能力の自立性	研究者、研究グループの研究活動の活性化のために、自立的に問題を解決する能力を備えているか。 ※業務経験説明書と自己アピール書に基づき、総合的に <u>5段階で評価</u>

評点	内 容
5	優れている
4	十分である
3	基準のレベル*を満たしている
2	やや足りない
1	かなり足りない

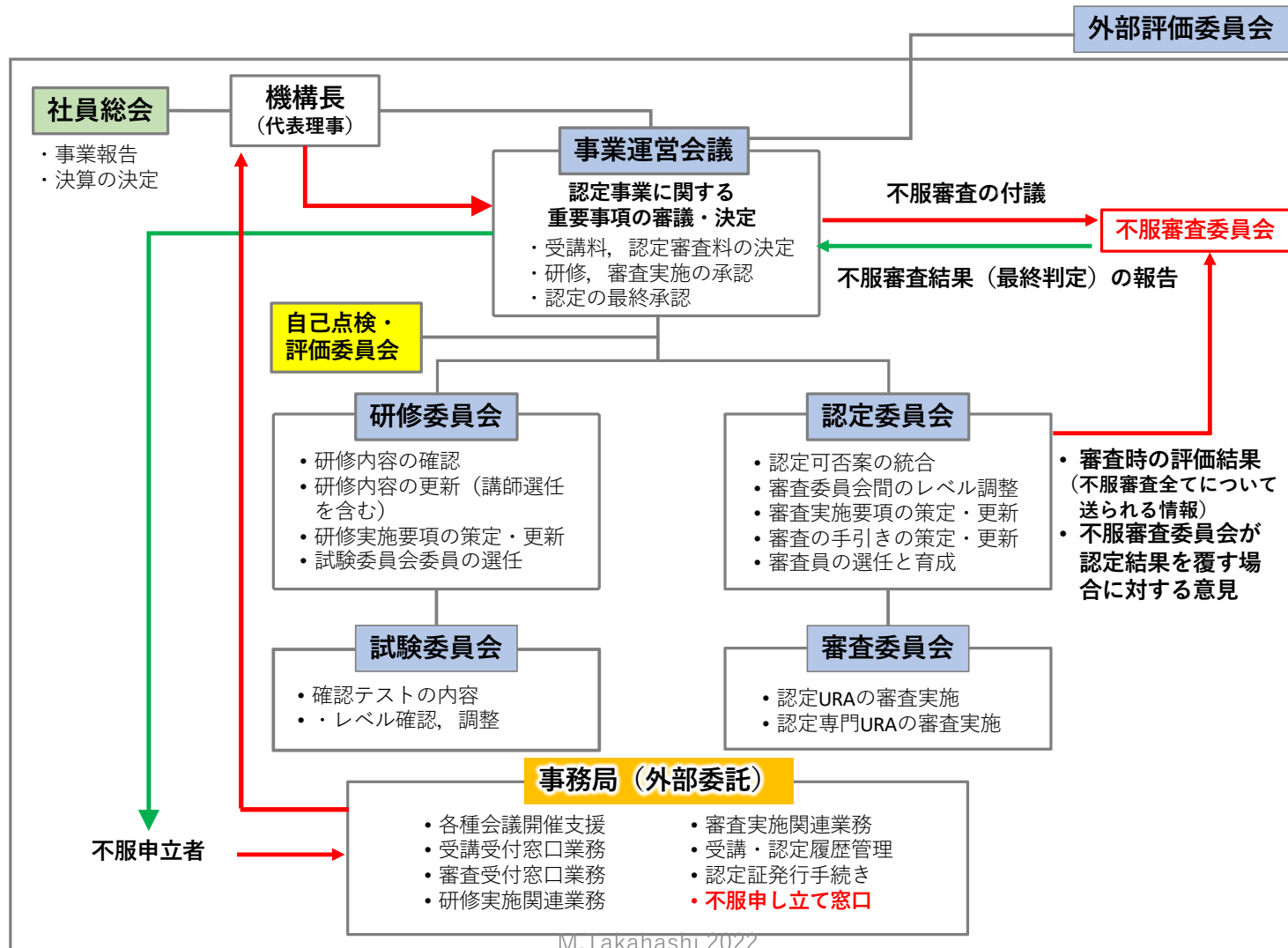
* 基準のレベル：スキル標準のスキルカード（中級）に例示されているレベル

- 評価項目1：
審査員の過半数の判定が「可」
- 評価項目2～4：
各々について審査員の評点の平均が3以上



- ✓ 審査委員会で合否判定結果を作成
- ✓ 認定委員会で点検，審査委員会間に著しい差があるときのみ調整

不服審査について



今後の大まかなスケジュール

前期：4/1～9/30
後期：10/1～翌3/31

大まかなスケジュール



具体的な日時はそれぞれの実施要項に記載

Advancedレベルの研修，認定専門URAの審査については今後検討

研 修

研修修了証の有効期間は, 修了した期を含め10期

2021年度修了者については特例対応 (2022.4.1~10期)

合格科目の有効期間は, 最初の科目に合格した受講期を含め4期

審 査

認定URAの認定証の有効期間は, 審査を実施した期の翌期から10期

情報公開

- 受講者数，修了者数
- 申請者数，認定者数
- 認定者の氏名

- 任期を終えた審査員

2021年度実績

Fundamentalレベル修了者：17名

Coreレベル修了者：1名

認定URA認定者：3名

※2021年度のCoreレベル受講者及び認定
URA申請者は特例措置者のみ。

※2022年度実施から積み上げ式での実施

研修

Fundamentalレベル

実施時期	受講者数	修了者数	修了証の有効期限
2021年度後期			
2022年度前期			

Coreレベル

実施時期	受講者数	修了者数	修了証の有効期限
2021年度後期			
2022年度前期			

審査

認定URA

実施時期	申請者数	認定者数	認定証の有効期限
2021年度後期			
2022年度前期			

認定者(認定者は氏名を公表することとしています。)